

【English Village MAEBASHI】



当所から車で約10分のところに、平成27年3月に閉校し、141年という長い歴史に幕を下ろした「嶺小学校」がありました。その場所が今年4月に、「英語を使い、楽しく活動しながら、英語を学ぶ」幼少期からの成長段階にあわせ、様々な体験学習を取り入れた「イングリッシュ・エディテイメント・プログラム※」を提供する施設、「イングリッシュビレッジMAEBASHI（英語村）」として、新たな地域の賑わいの場所に生まれ変わりました。

体験できるプログラムは、対象者の年代に合わせて様々なものが用意されています。将来のグローバル人材育成のための有力な手段であり、英語村において用意された英語で学ぶ書道や茶道、クッキングクラスなど多種多様なプログラムは、多くの人々の英語教育に対する要望に応え得るものとなっています。

利用にあたっては事前予約が必要です。詳しくはお問い合わせください。

※Edutainment=Education（教育）とEntertainment（楽しみ）を組み合わせた合成語です。（文：丸山）



- 住所: 〒371-0125 群馬県前橋市嶺町1409-2
TEL:027-289-3125
FAX:027-289-9251
http://www.english-village.jp/

『送る月日に関守なし』

リレーcolumn
すたっぷの目

文:森田 博子
【もりた ひろこ】



交流の家に異動して5年目を迎えました。異動するまでは、建物の中で黙々と事務作業を行っていた身にとっては、業務の分掌に係わらず、宿直や退所時の点検などの折に、施設職員として利用者の方々と直に接する機会があることは、青少年教育に携わる者として貴重な経験だと日々感じています。

8月の群馬は暑い日が続きますが、当所周辺では森の中や沢沿いなど、風が吹くと涼しさを感じられる場所もあります。ご来所の際は長袖・長ズボンをご用意の上で、水分補給をしつつ、敷地内の動植物をはじめ豊かな自然を味わっていただけたらと思います。



植物や野菜にも詳しい森田さん。実は所内のどこかに、森田さんが手入れをしている「森田農園」という畑があります。訪れた際、ぜひ探してみてください。

つぶやき田

【テーマ：私の自慢できること】

- 全国主要都市への旅行回数。但し長くても1泊2日、短い時は日帰り、観光はほぼなしです。(森田)
●7泊8日かけて赤城山を登山する交流の家の事業に3年連続参加予定。参加者もそうだが、自分が一番成長した!? (田野崎)
●「さんぽ」続けています。後半、膝が痛くならなくなる日が来る事を楽しみにしています。(鈴木)
●現役時代は身長190cmありましたが、加齢とともに今は188cmになりました。しかし高いところは手が届くので、高所の作業はお任せあれ(笑)(笛木)
●自慢できることが無いので悩みますが、握力が強いことでしょうか。赤城で3番目くらいじゃないかと思えます。(手島)
●何事も楽しくこなすこと。どんなとき、なんどきも笑顔を忘れないように心がけています。(丸山)
●学校で授業をしているとき、右手でも左手でも字を書けることです。結構子どもたちは驚きました。(阿左見)
●雑学好きです。「つどい」などで、利用者に「へえ」と言ってもらえるようなネタを日々仕入れようと考えています。(田村)
●私の自慢は、風邪をひかないと言うか、正確には熱を出して寝込まない事です。早く寝ることですね。(杉浦)
●自慢は早寝早起きです。目覚ましがなくとも朝6時には起きることができます(朝ごはんも食べてます)。(池守)
●わたしの手相は両手ますかけ！徳川家康と同じ手相で、天下取れるらしいです。でも、女性だと強すぎてダメなんですって。うーむ。(高橋)
●登頂した日本百名山の山バッジを集めています。現在、13個。本当の自慢になるように今後頑張りたいです。(田中)
●初詣のおみくじが5年続けて大吉です。が、特に効果を実感したことはありません。幸せってそんなもんなんですかね。(岡)
●物事を客観的・論理的に考え、違う視点からも見ようと努力しているところ(できてはいないが)(大工原)
●落ち込んだときなど、美味しいスイーツを食べると、すぐ元氣(幸せ!)になります。(阿佐美)
●自慢は、衝動買いです。欲しい物があれば、見境なしに買っちゃいます。でも、買ってから後悔すること多々あります。(小倉)
●ほとんどのことが面白くて、楽しいこと。毎日笑っていられる環境であることに感謝です。(渡邊)
●「私の自慢できること」って、思いつかないなあ...まあ、20数年、よくこの仕事をやってきた、ということにするか！(佐藤)
●人様に自慢できることはないが、単身赴任も数年となりカレーが美味しく作れるようになったかな...。(穴澤)
●姿勢がいいとよく言われます。昔習っていたバレエのおかげですかね。猫背とは無縁です！ただ、体の柔軟性はほぼ残っておりません...。(大濱)

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



風のおと

『例年通り?』

桜の次はツツジがきれいな赤城山周辺は、例年通りに梅雨入りをしました。この時期に所長室でお蚕様を飼うのも3年目となり、ツバメがやってきて巣を作るのも初夏の風物詩です。昨年今頃は、県北部のダムの貯水利用が少ないと話題になりましたが、今年は満水に近いそうです。前半は空梅雨の様相ですが、例年並みとは総雨量のことなのでしょうか。交流の家に来る子どもたちにとって、この時期予定通りに野外で活動ができることはとても

ありがたいことですが、名物(?)の雷には細心の注意が必要です。しとしと梅雨ではないドサーっと降る“男梅雨”は、雷とセットになることが多いような気がします。真夏に比べて天気が変わりやすいこの頃ですが、気象も含め例年通りに慢心しないよう、子どもたちが思い出に残る体験活動ができるよう準備を行いたいと思います。

所長 杉浦 俊之

次号は、10月1日発行予定!

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中

体験の風をおこそう



国立赤城青少年交流の家 http://akagi.niye.go.jp/

TEL:027-289-7224 (9:00~17:00) FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp

あかぎの事業 **【出会った仲間と一緒に一歩！】**

ボランティア養成セミナー

5月13日(土)～14日(日)の1泊2日でボランティア養成セミナーを開催しました。高校生6名、大学・専門学校生10名、社会人1名の合計17名の参加がありました。

大学の教授による救命救急法の講義や実技、交流の家の所長や機構本部より招いた講師による、青少年教育についての講義を受けました。演習では、仲間作りレクリエーションや火つけ体験を行いました。起こした火でビー玉やマシュマロを焼き、楽しみながら火を扱う体験をし、互いの仲も深まりました。後半には、ボランティアの意義や赤城での活動について先輩ボランティアと交流しながら活動に対するイメージを持ちました。

参加者の方からは「今後、国際交流に関する活動をしてみたい。」「同じ気持ちや考え方をもった人たちと話をすることができてよかった。」などの声を聞くことができました。セミナーに参加して下さった皆さんとは、今後一緒に活動をしていけることを楽しみにしています。

(文：田野崎)



↑火起こしの様子。苦戦したグループも多かったようですが、仲間と協力して火を起こすことができました。



↑救命救急法の講習では、心肺蘇生法などの基礎的な知識を、実践を踏まえて学びました。

【たくさんの学び、そして思い出】
日独青少年指導者セミナー

5月25日(木)～29日(月)で「日独青少年指導者セミナー」を行いました。この事業は、40年以上歴史のある交流事業で、文部科学省とドイツ連邦共和国家庭・高齢者・女性青少年省の委託を受けて実施しています。日本とドイツの青少年教育の現状や取り組みを理解し、両国の指導者が意見交換することを通して、青少年指導者の資質や能力の向上を図ることを目的としています。今回は団長と8名のドイツ人が参加しました。

ドイツ視察団は、5日間を通して日本の文化に触れ、また日本の教育現場の様子を、多様な角度から学ぶことができました。日本の文化体験として、高崎市の少林山達磨寺の見学や、おにぎり作り、草津温泉にて足湯や湯もみの体験もしました。日本人の家庭でホームステイを行い、各家庭で日本人家庭の生活を体験できたようです。

また、「子供の居場所」についての講義や、不登校児適応指導教室「あすなろ」の話の聞きまし。地域の公民館等で生徒主体の学習活動を支援する「地域寺子屋」の見学も行い、日本の教育現場、子どもたちの現状について、大いに考えるきっかけになったようでした。

ドイツ視察団に日本の青少年教育の現状や取り組みを理解してもらい、併せて日本の文化にも触れてもらえた、充実した5日間でした。(文：田村)



「縁起だるま」で知られている少林山達磨寺。大きなダルマにびっくり？



「草津温泉」での湯もみ体験。群馬ならではの体験もたくさんできました。

プログラム紹介！

【キンボール】

キンボールとは、1チーム4人、3チームで同時にプレーするゲームです。チームは色で分けられ、ピンク、グレー、ブラックの3つです。使用するボールは、直径122cmの大きなボール。大きいですが意外と軽く、重さは1kg程の柔らかいボールです。このボールを手や腕で打ち上げ、他のチームはボールが床に落ちる前にレシーブします。

ボールを上げる際の合言葉は「オムニキン」。これは、「すべての人が楽しめるスポーツ」という意味だそうです。「オムニキン、〇〇(他チームどちらかの色)！」という掛け声とともに、ボールをヒットします。大きいボールは滞空時間が長く、ヒットの仕方によって様々なテクニックが使えます。

このキンボールは、ニュースポーツの種目のひとつ。ニュースポーツとは、年齢等に関わらず誰もがプレーでき、競うことより楽しむことを主とするものです。初めての方でもきっと楽しめます。ニュースポーツは他にも色々な種類があるので、ぜひ体験してみてください。(文：大濱)



チーム4人の協力が鍵となるキンボール。誰もが夢中になって楽しめるスポーツです。

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 法人ボランティア

綿貫 あかりさん (ボランティアネーム：うーちゃん)

昨年5月から法人ボランティアになり、既にたくさんの場面で活躍してくれている「うーちゃん」の紹介です。

幼稚園の子に自然体験を提供する団体で、最初のボランティアを経験した際、子どもに楽しい体験をさせたい、一緒にしたいと感じ、それが今でも原動力となり、交流の家でもボランティアになってくれました。

交流の家の事業でのボランティアでは、普段関わることの少ない様々な年代の方と触れ合い、たくさんの笑顔を見ることが出来るのも楽しいそうです。特に子どもたちからは笑顔と「ガンバルパワー」をもらっているそうです。

そんな彼女自身も、とびきりの笑顔をどんな時でも周りに与えてくれています。今後も色々な人と関わりたいと思っているステキな笑顔のうーちゃんに、ぜひ会いに来てください。(文：田中)



キャンプや交流の家の事業など、様々な場面で活躍してくれているパワフルなうーちゃん。彼女の笑顔につられて、こちらも自然と笑顔になります。

雷や突然の豪雨への注意

あかぎをつかう！

「雷と空っ風義理人情」群馬県紹介の有名な「上毛カルタ」にも取り上げられているように、群馬県は雷が多いところです。また、ゲリラ豪雨もあちこちで頻発しています。

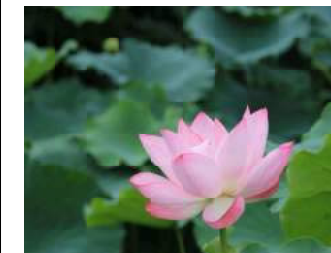
340(m/秒)×光ってから音が聞こえるまでの時間(秒)の式で、おおよその雷の発生場所の距離がわかります。例えば光ってから3秒でゴロゴロと聞こえると1km以内で落雷が発生しています。しかし、急な雷雲の発生で雷がどこに落ちるか、そして豪雨になるかわからないのが最近の特徴です。黒い雲が発生し、風が急に強く吹いたら、大至急頑丈な建物の中に避難しましょう。

(文：笛木)



～表紙絵の植物紹介～

【蓮(ハス)】蓮は、インド原産のハス科多年性水生植物です。花の中心部にある花托が、蜂の巣に似ていることから、「はち巣」「はす」と呼ぶようになったという説があります。花期は7～8月で、早朝に咲き昼には閉じます。果実の皮はとて厚く、土の中で発芽能力を長く保持でき、埼玉県行田市のゴミ焼却場建設予定地から発見された、およそ1400年から3000年前のものが発芽した例もあるようです。地下



茎は皆さんご存じのレンコンや、すり潰し葛として使われる物もあるようです。泥水の中から生じ、清浄な美しい花を咲かせる姿から、仏教などで慈悲の象徴とされ、寺院などに行くとき各所に彫刻などが施されています。(文：阿佐美)

赤城山ツーリズム 第6回

「モノから体験へ」

NPO法人まえばし農学舎 黛 若葉さん

観光といえば、その地の美味しいグルメを食す、満開の花々を見る、動物と触れ合うなど、すでにあるモノを楽しむ観光がメインとなっています。もちろん、それが悪いわけではありません。私も美味しいものを食べることは大好きです。ただ、これからは「本物を知る」観光が必要ではないかと思っています。農家のもとで仕事体験をし、野菜を収穫し、採りたての新鮮な野菜の甘みを知る。魚を釣るだけで終わらず、自分でさばくことで命をいただくことを知る。産みだすの卵

の温かさを知る。職人が協力することで観光MAPには載らない特別な体験をつくる。体験を通して地を知る。それが、これからの新たな観光のカタチではないでしょうか。まえばし農学舎では、赤城南麓の地を盛り上げていくために、本物を知る体験を提供し続けていきます。



これからの動き 下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください⇒TEL：027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)

■あかぎ多文化共生推進事業
～映画を創ってみよう！～
8月18日(金)～8月20日(日)2泊3日

この夏、ショートmovieを様々な国の仲間とともに創ってみませんか？

すでに海外からの申し込みもきています。映像知識のあるアメリカ人とインドネシア人の監督が指導してくれます。

募集方法等の詳細に関しては、交流の家ホームページをご覧ください。



■ふじみフレンドシップキャンプ
①8月5日(土)～6日(日) 1泊2日
②11月10日(金)～12日(日) 2泊3日

このキャンプは、富士見地区に住む小学校4年生～6年生を対象としています。自然体験を通じて仲間づくりをし、中学校で一緒になる前に仲良くなってもらふことや、「ふじみ」の魅力(豊かな自然や地場産業)を再発見し、郷土愛を育むことを目指しています。将来を担う子どもたちに、大人になっても忘れられない体験をしてもらい、富士見の未来を明るく活気づけていってほしいというコンセプトです。

